

財団レポート 1

●人工知能学に基づく「認知症見立て知」の共学・共創システムの開発と実証評価研究報告 (2018年度研究内容)

本研究は（一社）みんなの認知症情報学会、静岡大学、当財団の共同研究で、みんなの認知症情報学会の「認知症見立て塾プログラム」を活用した認知症見立て知の共学・共創システムの開発を進めています。2018年度は、ケア従事者の見立て能力育成を目指して、ICT技術・AI技術を活用した遠隔講義システムを開発しました。

認知症見立て塾のプログラム

本プログラムは、医療的に改善可能な認知症の検討という考え方を基本として、症例を活用しながら学びを深めます。詳しくは、【上野19】をご覧ください。講師と学習者が一つの空間で学び合う仕組みが特徴ですが、さまざまな地域で多面的に展開するために、講師が遠隔から参加するための仕組みを開発しました。

遠隔講義システムの機能

開発したシステムを図1に示します。本システムの機能は、(1) 講師側・学習者側の音声・映像データ通信、(2) スレート端末による見立て情報入力、(3) 学習者の見立て入力情報の講師へのリアルタイムフィードバックの3点です。この機能によって講師が遠隔から講義をしていても学習者の状況を逐一確認することができ、学習状況に合わせたプログラム進行が実現できることが示されました。

学習者への学習評価のフィードバック

学習者が入力した見立て情報を人工知能学的に解析し、どのような知識が獲得できたのかを可視化する機能も開発しました。例えば、せん妄状態の症状、判別方法、原因等を症例の中から見立てることができたのかを評価します。この機能を発展させることで、学習者の学習意欲を引き出す仕掛けに発展できる可能性が示されました。

2019年度も引き続きシステム開発を進め、2018年度に得られたデータに基づき本システムの有効性を検証していきます。最後になりますが、本研究にご参加いただいた皆さま及び関係の皆さまに御礼申し上げます。

【上野19】 上野秀樹、石川翔吾、竹林洋一：人工知能学に基づく認知症の見立て知の共創・共学、整形・災害外科、Vol.62, No.3, pp.249-259, 2019.

照会先 静岡大学 情報学部 助教 石川翔吾
〒432-8011 静岡県浜松市中区城北3丁目5-1
TEL：053-478-1488

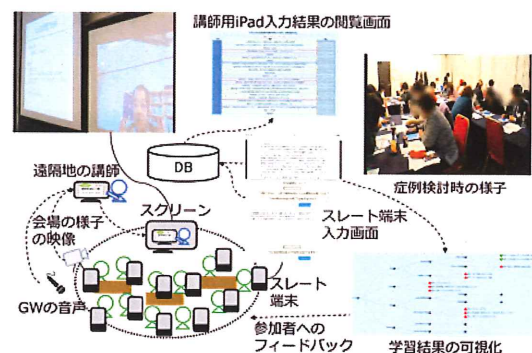


図1：認知症見立て遠隔講義システム